

前橋版 CCRC 構想推進協議会 第 2 回会議

- 日時：平成 28 年 11 月 22 日 14:00~15:15
- 場所：前橋市役所 11 階北会議室
- 資料
 - ・ 議事次第
 - ・ 前橋版 CCRC 構想推進協議会委員名簿
 - ・ 資料 1：前橋版生涯活躍のまち（CCRC）構想策定の考え方について
 - ・ 資料 2：前橋版生涯活躍のまち（CCRC）構想（案）
 - ・ 資料 3：日赤跡地 CCRC 事業者募集スケジュール（案）
 - ・ 資料 4：日赤跡地生涯活躍のまち（CCRC）事業スケジュール
 - ・ 回覧：日赤病院跡地のまちづくりに関するニュース 第 1 号

■ 参加者

氏名	所属		
	団体名	役職	
平方 宏	前橋商工会議所	安心・安全なまちづくり委員会委員長	座長
小中 俊太郎	前橋市医師会	理事	欠席
関根 兼久	観光コンベンション協会	コンベンション誘致課参事兼課長	
宮崎 均	前橋工科大学	副学長	
平形 和久	群馬医療福祉大学	IR 室長	
松本 学	共愛学園前橋国際大学	松本学 学長補佐	欠席
岡庭 弘基	群馬銀行	常務取締役兼本店 南営業部長 代理	
小淵 紀久男	上毛新聞社	編集局報道部長	
北川 公啓	社会福祉協議会	地域福祉課長	欠席
須田 敏裕	地域づくり協議会	中川地区地域づくり協議会 世代間交流部会長	
青木 正	地元自治会	中川地区自治会連合会長	
高橋 功	日赤群馬県支部	事務局次長	
吉澤 康	前橋赤十字病院	関根事務部長 代理	
平井 敦子	群馬県健康福祉課	地域福祉推進室長	

<事務局>

前橋市副市長 倉嶋敬明

前橋市役所 政策部 政策推進課

1. 開会

2. 副市長あいさつ

(倉嶋副市長) 今回は、第一回を受けて構想案を更新したほか、日赤跡地 CCRC について、12 月公募に向けたスケジュールなどを説明予定である。また、前橋市としての「CCRC」の名称の扱いや地元住民向け広報、説明会についても説明を準備している。新たな事業であり、市としても手探りな面があるため、委員の皆様には是非ご意見いただきたい。

(事務局) 国では「生涯活躍のまち」という名称を用いている。前橋市でも前橋版「生涯活躍のまち」という名称に変更する。

3. 座長あいさつ

(平方座長) 新しい意見をいただき、相乗効果が発揮できるようにして参りたい。

4. 議事

(1) 前橋版生涯活躍のまち (CCRC) 構想 (案) について

(事務局) 資料 1「前橋版生涯活躍のまち (CCRC) 構想策定の考え方について」及び資料 2「前橋版生涯活躍のまち (CCRC) 構想 (案)」説明。

(平方座長) 前橋市のまちづくりの基本方針は、「子どもたちの元気な声が聞こえるずっと住みたい生涯活躍のまち～健康医療都市まえばし～」である。その方針の通り、各種施策や前橋版生涯活躍のまちを推進予定である。前橋版生涯活躍のまちの方向性や日赤跡地生涯活躍のまちの具体的なスケジュールを説明いただいた。質問、ご意見などいただきたい。

(平形委員) 群馬県は「都道府県魅力度ランキング」の順位が低い。温泉の宅配など、群馬県ならではの資源の活用も検討できるとよい。人口減少・地方創生の流れの中で、コンパクトシティや CCRC 構想などが市の運営に必要であることは承知している。日赤移転によって、防災拠点としての備蓄庫が地域住民から遠くなってしまふことを懸念している。保育園や医療福祉施設の整備で、世代間交流を視野に入れた総合的なまちづくりを進めていくことも重要である。また 55 歳前後で役職定年を迎えるアクティブシニアを前橋市に誘致し、地元企業へ紹介する制度も整備できるとよい。リタイア前の生活設計が必要である。魅力を PR するための旗振り役が、前橋版生涯活躍のまちでも必要である。

(関根委員) 前橋には歴史や文化、自然等の魅力があり、移住者によって新たな魅力も見つかる可能性がある。こうした魅力の再発見ができるとよい。

(岡庭氏(南委員代理)) 前橋の資源が反映された構想だと認識する。前橋版生涯活躍のまちを具現化するにあたり、入居者像の明確化が必要である。入居者像が明確になると、アクティブシニアの活動プログラムなどの具体的な施策も打てる。

(事務局) 元気な高齢者や子育て世代を入居者として想定している。

(小淵委員) 各地で構想策定が進んでいる。前橋版生涯活躍のまちと他地域との差別化ができるとよい。前橋版生涯活躍のまちの場合は「医療介護」を特色に位置づけているが、他の地域も同様なのではないか。

(事務局) 前橋市では「生きがづくり」を強調する形で、差別化を図りたい。今回は日赤跡地で新しい施設整備を行うことから、新規の機能導入のハードルも比較的低いと想定できる。「生きがづくり」の具体的な内容については、民間事業者の意見を活かす形で検討を進めたい。

(宮崎委員) 本事業の主体を明確にしたい。市や県、日赤、民間事業者の役割や事業のフレームが見えない。また、首都圏居住者の中でもどういった特性を持った人が移住するのか、明確になるとよい。前橋市は農業が盛んな土地柄もあり、都会的なライフスタイルを好む人が前橋市に移住する可能性は低い。例えば家庭菜園などを好んで取り組むような人のライフスタイルにあわせた提案ができるとよい。前例の無い公募方法ということで、各主体から色々な意見を出し、成功につなげることが重要である。

(事務局) 具体的な内容は民間事業者の提案を受けて考えたい。市が必要だと考えている機能の導入方法や公共機能の整備、地元コミュニティとの調整については、民間事業者と協議して行いたい。

(平方座長) コミュニティづくりの方針や移住のターゲット像は、本事業の基礎である。

(事務局) 民間事業者が前橋市へ提出する計画と市の計画・方針とを調整の上、具体的内容を委員の皆様にお知らせしたい。

(吉澤氏(関根委員代理)) 日赤跡地事業者公募に関して、今回公募対象となるのは、「開発・運営事業者」なのか。もしくは各テナント事業者も12月時点で公募予定なのか。スケジュールを知りたい。

(事務局) 開発・運営事業者を募集しつつ、医療や介護、住まい、健康づくりといった特定機能を担う事業者と調整を図る。現在事業者には19社程度サウンディング中であり、事業主体のマッチングについては検討していく予定である。

(高橋委員) 基本構想の方針については理解している。地権者としては、契約を締結する事業者が誰なのか、平成30年3月に売却できるのかが気になる。また、公募にあたり、「前橋版生涯活躍のまち」の姿はさらに具体化するのか。

(事務局) 前橋市として必須と考えている機能と付加的機能を民間事業者に提示しながら、事業者に提案いただく予定である。不足する機能があれば、協議の上、追加する。

(青木委員) 日赤が移転するイメージがまだ湧かないのが正直なところである。

(須田委員) 回覧配布や説明会という形で地元住民への説明・理解促進についても配慮していただけた点は良かった。前橋版生涯活躍のまちの具体的な内容は、民間事業者の提案次第で変わるということなのか。民間事業者も、市が条件を絞らないと具体的な提案ができないのではないか。

(事務局) そのような懸念を払拭するため、現在各事業者にサウンディングを行っている。結果を踏まえて検討していきたい。

(平井委員) 具体的な提案が出てきたら意見したい。福祉の観点から、高齢者だけでなく、子育て等の多世代に考慮していただきたい。

(平形委員) 全体コーディネーター役は、群馬県環境を十分理解している事業者任せたい。群馬県特性を十分に理解していないと、使いにくい施設整備につながる可能性がある。

(平方座長) 現在の地域包括支援センターのエリア区分と今回のCCRCの5つのエリア区分の関係はどうか。

(事務局) 拠点の配置については地域特性を踏まえて、今後検討予定である。

(倉嶋副市長) 今回は状況報告のみだが、今後、民間事業者の提案も踏まえて、具体的なフレームや内容を皆様に報告したい。

(2) 日赤跡地生涯活躍のまち (CCRC) 事業者募集スケジュールについて

(事務局) 資料3「日赤跡地 CCRC 事業者募集スケジュール (案)」及び資料4「日赤跡地生涯活躍のまち (CCRC) 事業スケジュール」について説明。

事業者の提案を受けた上で、市や日赤との協議を開始する。その中で必須機能のボリュームなども具体的に決める。第3回会議については、事業者の提案が出てこないとならば本日の議論と重複する部分が多くなるため、省略することをご理解いただきたい。公募要項やスケジュールは、都度報告予定である。

(平形委員) 老健や訪問看護を入れたいという提案があれば、運営にかかるコストやその金銭的制約についても、民間事業者からの提案ベースで検討するのか。

(事務局) 市の施設整備に際し、「事業者で独自提案できればよりよい施設ができた」、という意見が多く聞かれる。長期的に民間事業者で自立的に運営するには、民間事業者の意見を最大限反映することが必要と考える。第一段階として、12月に開発・運営事業者から参加表明をいただく予定である。最終提案は5月過ぎに提出される。具体的な運営方法や各テナント事業者とのマッチング方法は、サウンディングの結果も含め検討中である。

(3) 日赤病院周辺地区への対応について

(平形委員) 公募への提案にあたっては、地元住民からの意見も参考にしたい方がよいのではないかと。公募要項を配布する際には、資料として加えてほしい。

(事務局) 住民意見をまとめた資料は委員へ送付する。また事業者募集は市のHPで行う予定である。

(吉澤氏 (関根委員代理)) 日赤本社に諮る必要があるため、公募要項については事前に協議いただきたい。

(宮崎委員) 計画から民間提案を募ることに賛成である。PFI事業では設計施工一体で民間事業者が行う事例も多い。前提条件として、今回、土地は売却なのか、賃貸なのか扱いを教えてください。

(事務局) 基本的には事業者が土地を購入することになる。事業者から「借地での利用」という提案があれば日赤と協議の上で検討する。

(事務局) 計画付事業者公募とすることで、時間の制約も少なく、創意工夫を活かした事業が可能になる。民間事業者から提案される計画のなかで、民間・行政の連携体制などは検討していく。

(平方座長) 地元住民が活用できる施設となる方が効果が高い。道の駅に関しても同様である。

(事務局) 地元の方が使えることは重要と認識している。地元説明会では、「新規住民も自治会に入会してくれるのか」、という懸念の声もあった。

(青木委員) 夜間急病診療所は、昼間も運営していただけるとありがたい。周辺地域では廃業する医院も見られる。

(平形委員) 本学の教授会では、地域通貨の提案があった。CCRC では、ボランティアなどの活動の対価として、施設・市内で利用できる通貨の仕組みがあるとよい。

5. 閉会